



タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3452		
科目名	防衛法制		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	オンライン	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1－E　〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3－H　〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4－I　〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1　学識と専門技能（40％） H1　論理的思考力（30％） I1　理解・分析と読解（30％）		
教員の実務経験	行政官として防衛法制の運用に携わった経験を踏まえ、日本国憲法の枠内で現実世界の所要を満たす新たな法制上の制度設計が生み出されたイノベーション等について説明します。（第1回～第15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 3　発展期　～　4　定着期		
科目概要・キーワード	日本の防衛制度について理解するために、自衛隊法を中心に防衛法制の基礎を学び、自衛隊などの日本の防衛を担う組織の構成、任務について学びます。自衛隊法の他に、防衛省設置法や国民保護法、PKO協法力、国際緊急援助隊の派遣に関する法律、海賊対処法、重要影響事態法、国家安全保障会議設置法など、国内外における自衛隊の活動に関する防衛法制全般について理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード　防衛、自衛隊、日米安保体制		
授業の趣旨	■副題 第二次世界大戦後の国内外環境の変化に対応した防衛法制の発展の道筋と概要を学びます。 ■授業の目的 日本の防衛法制について、関連する法律の概要、その制定・改正の社会的背景と運用状況に関する基礎的な専門知識を学習します。 ■授業のポイント 冷戦の勃発や終焉に伴う国際環境の変化に対して、我が国の平和と安全を全うするために日本国憲法の下で防衛法制がどのような展開を遂げてきたのかという観点から、防衛法制の地歩を拡大してきた法制上のイノベーションの生成と普及を体系的に分析し、防衛法制の分野で行われてきた法的な問題解決の経緯を説明できる能力を身に付けることを目的とします。このような学習を行うことは、皆さんが将来直面することになる未知の課題への対応をデザインする		

	際に有益なヒントをもたらすことでしよう。 条文に基づく法解釈学だけでなく法社会学，法制史，法制執務（立法・法改正）という基礎法学も取り扱う応用法学となります。毎回の講義は膨大なデータからそのポイントを取り出す訓練となりますので、法学の学習に自信のない学生諸子は憲法、行政法や国際法等を履修した後に履修すること一案です。	
総合到達目標	■ 防衛法制に関する理論知と実践知を獲得して運用する能力を高めるために、法令というジャンルの条文というスタイルのテキストの読解や解釈等の技能を修得し、社会環境の変化を踏まえて発展を遂げた防衛法の概念、制度と体系に関する知識を理解する。その上で、事案の分析を踏まえて適用法令（新規立法を含む）を選択して適用するというアプローチにより安全保障・防衛上の課題の解決を図る態度を涵養する。 ・ 法令解釈の技法とその適用方法を説明し、使用できる。（第1回・第2回） ・ 防衛法制を取り巻く国際法や憲法の大枠を説明できる。（第2回） ・ 防衛法制上の中心的な概念を説明し、条文に則して制度を再構成できる。（第2回，第4回～第14回） ・ 日本を取り巻く安全保障環境の変化と防衛法制の発展の関係を説明できる。（第3回～第15回） ・ 防衛法制の諸制度を貫く体系とイノベーションの道筋を説明できる。（第3回～第15回）	
成績評価方法	■ ミニ・テスト15回（40％）：適用ルブリック E1・H1・I1 （評価の観点）当該単元でポイントとなる知識や概念の理解度を測定します。 （フィードバックの方法）オンラインでの回答の添削を返信します。次の授業の開始時に、解答例の解説を行います。 ■ レポート3回（20％×3）：適用ルブリック E1・H1・I1 （評価の観点）自主創造の3つの構成要素（自ら学ぶ・自ら考える・自ら道をひらく）と日本大学マインド（日本の特性を理解し伝える力、多様な価値を受容し自己の立場・役割を認識する力、社会に貢献する姿勢）を組み合わせた思考コードを踏まえて、知識・応用・創造の力を測定するレポートを課します。 （フィードバックの方法）第15回授業において、解答例の解説を行います。	
履修条件	第二次世界大戦後の日本の安保・防衛の歩みと今後を防衛法制という観点から学んでみることに興味を抱き、毎回の授業の予習として防衛法制を題材とする大量の資料を読みこなすことのできる意思と能力を備え、あらかじめ定まった解のないレポート課題にも果敢に挑戦する意欲を持ち、意見の異なる者とも協働して互いを高める柔軟性と寛容性を有し、講義への主体的な参加を通じて自分を成長させたいという強い意志を持っている学生の参加を歓迎します。授業に関する資料の事前・事後の配布や連絡をポータルサイトを通じて行いますので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。また、個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をしてください。	
履修上の注意点	ポータルサイトを通じて授業に関する資料の事前・事後配布や連絡を行うので、毎週必ずポータルサイトを確認してください。教員から個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をしてください。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス、法令の解釈 ②授業概要 （ガイダンス）授業のテーマ・内容・スケジュール・評価方法を確認する。 （法令の解釈）法令の構造と解釈の知識とスキルを学ぶ。実務の観点を交えた解説をします。（E1・H1・I1） ③予習（120分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：シラバスに書かれている予習と復習を必ずやり遂げる）、予想される困難とこれを克服する方策（例：よく判らなかった部分を放置せずに友人と相談する、オフィスアワーの時間を利用して教員に質問する）を考える。学習の記録をつける。 ④復習（120分） ポートフォリオ作成用のファイルを準備し、予習用資料・講義スライド・ノート・小テストの回答と講評等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で予習×授業×復習の時間を確保する学習計画（日課表）を作成して、学習のPDCA（Plan-Do-Check-Action）を始動する。学習の記録をつける。
	2	①授業テーマ 国際社会で許容される実力の行使と日本国憲法の平和主義

	②授業概要 防衛法制の外枠と指導原理を定める戦争に関する国際法の規律と日本国憲法の平和主義について学習する。国際法の戦争に関する規律の変遷と憲法第9条の解釈の背景にある価値基準や考慮事項について考え、説明できるようにする。学界と政府の見解の異同を実務の観点から解説します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 事前配布資料を読むとともに「立憲主義と統治」や「国際法」の関連講義を振り返り、戦争に関する国際法と憲法の規律について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。参考書や防衛白書の「憲法と防衛政策の基本」を読み、国際法の戦争に関する規律の変遷や憲法第9条の理念について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
3	①授業テーマ 第二次世界大戦後の我が国を取り巻く環境の変化と安保・防衛の歩み ②授業概要 第二次世界大戦後の我が国を取り巻く環境の変化と安保・防衛の歩みを、防衛法制上の課題解決という観点から学習し、防衛法制の展開の社会的な背景について考え、説明できるようにする。実務経験を交えた解説を行います。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、第二次世界大戦後の安保・防衛の流れを考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛省HPで平成16年版防衛白書の「写真で見る防衛庁・自衛隊50年」及び平成19年版防衛白書の「防衛省・自衛隊の歩み」（第Ⅱ部第3章第1節）を閲覧し、防衛白書資料編の「防衛年表」を参照しながら、防衛上の課題とその問題解決という観点から、防衛法制の展開とその社会的背景を表に整理し、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
4	①授業テーマ 防衛を担う組織の任務、編成、職員と予算等 ②授業概要 一般行政とは異なる特殊性を持つ防衛を担う組織の任務、編成、職員や会計の制度が法律でどのように定められているのかを学習し、防衛法制の展開の社会的な背景を考える。実務経験を踏まえた解説を行います。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、防衛を支えるヒト・モノ・カネの規模について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書の「防衛省・自衛隊の組織」、「防衛関係費」、「防衛装備・技術に関する諸施策」を閲覧して、防衛を担う組織の任務、編成、職員や会計に関する制度と一般行政に係る制度との異同について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
5	①授業テーマ 自衛隊の行動①（防衛出動、国民保護等派遣、治安出動、警護出動） ②授業概要 自衛隊の防衛出動、国民保護等派遣、治安出動と警護出動についての要件・手続・権限を学習し、説明できるようにする。法制の変遷を実務の観点から解説します。（E1・H1・I1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書の「侵略事態への備え」、「島嶼部に対する攻撃への対応」、「ゲリラや特殊部隊などによる攻撃への対応」の説明を読み、自衛隊の活動について考察するとともに、資料編の「自衛隊の主な行動」等を参照して防衛出動、国民保護等派遣、治安出動と警護出動について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
6	①授業テーマ 自衛隊の行動②（災害派遣、地震防災派遣、原子力災害派遣） ②授業概要 自衛隊の災害派遣、地震防災派遣、原子力災害派遣についての要件・手続・権限と運

2024/09/03 12:13

シラバス参照

	用の実績を学習し、その概要を説明できるようにする。後二者が災害派遣とは異なる行動となった背景を実務の観点から解説します。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書の「大規模災害などへの対応」、資料編の「自衛隊の主な行動」等を閲覧・参照しつつ、災害派遣、地震防災派遣、原子力災害派遣について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
7	①授業テーマ 自衛隊の行動③（海上警備行動、海賊対処行動、機雷除去、弾道ミサイル等破壊措置） ②授業概要 自衛隊の海上警備行動、海賊対処行動、機雷除去、弾道ミサイル等破壊措置についての要件・手続・権限と運用の実績を学習し、その概要について説明できるようにする。実務経験を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書の「領海及び内水内潜没潜水艦への対処など」、「武装工作船などへの対処」、「弾道ミサイル攻撃などへの対応」、「海賊対処への取組」、「訓練を通じた海洋における公共の秩序の維持への貢献」の説明を読み、自衛隊の活動について考察する。また、資料編の「自衛隊の主な行動」等を閲覧・参照しつつ、海上警備行動、海賊対処行動、機雷除去、弾道ミサイル等破壊措置について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
8	①授業テーマ 自衛隊の行動④（領空侵犯対処、在外邦人等の輸送・保護等） ②授業概要 自衛隊の領空侵犯対処措置、在外邦人等の輸送・保護、その他の付随的任務についての要件・手続・権限と実績を学習し、その概要について説明できるようにする。実務の観点を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書の「周辺会空域における安全確保」、「在外邦人等の保護措置及び輸送への対応」、「市民社会の中での活動や社会に貢献する活動」の説明を読み、自衛隊の活動について考察する。資料編の「自衛隊の主な行動」等を閲覧・参照しつつ、領空侵犯対処措置、在外邦人等の輸送・保護、その他の付随的任務について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
9	①授業テーマ 有事法制の整備 ②授業概要 有事法制の意義、有事法制研究の経緯、有事法制の整備を可能とした国内外の環境の変化と有事法制として整備された法制度を学習し、有事法制の意義と概要について説明できるようにする。実務の観点を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、有事法制とこれを取り巻く国内外の環境について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。平成 1 6 年版防衛白書の「武力攻撃事態などへの対処などにかかわる取組」を閲覧し、我が国の専守防衛という防衛戦略と有事法制の関係について考え、有事法制の意義とその概要について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
10	①授業テーマ 日米安保条約と地位協定等 ②授業概要 我が国自らの防衛努力とあいまって隙のない防衛態勢を構築している日米安保体制を規律する条約等の経緯を学習し、その意義と概要について説明できるようにする。実務経験を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分）

	事前配布資料を読み、世界において米国が占める地位や日米同盟の深化と発展について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書を閲覧して「日米同盟の強化」の説明を読み、日米同盟の深化と発展について考察する。日米安保体制を規律する条約等の経緯と概要やこれらの取極と日米防衛協力の実効性の関係について考察し、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
11	①授業テーマ 日米安保体制の国内実施法と防衛施設関連法 ②授業概要 日米安保体制の国内実施法と防衛施設関連法について外国軍隊の駐留や防衛施設存在に伴う課題の解決という観点から学習し、その意義と概要を説明できるようにする。実務経験を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、防衛施設が地元及び影響と対策について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書を閲覧して「地域コミュニティとの連携」の説明を読むとともに、米軍基地所在自治体の基地対策関連HPを閲覧し、在日米軍の駐留や防衛施設存在に伴い生ずる課題と解決策について考え、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
12	①授業テーマ 自衛隊の国際貢献①（国連平和維持活動、国際緊急援助隊） ②授業概要 冷戦の終結に伴い国際環境の安定化のための能動的な取組が各国に求められる中で、日本国憲法の下で自衛隊の国連PKOへの参加を可能とした法制上のイノベーションとその限界について学習し、その意義と概要を説明できるようにする。実務の観点を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の国際貢献活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。防衛白書を閲覧して「国際平和協力活動への取組」の説明を読むとともに、資料編の「自衛隊が行った国際平和協力活動など」等を読み、自衛隊の国連平和維持活動等、国際緊急援助活動を可能とした法制上のイノベーションや国連平和維持活動の変質への対応について考え、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
13	①授業テーマ 自衛隊の国際貢献②（周辺事態・重要影響事態、テロ対策、イラク人道復興支援等） ②授業概要 国際社会による事態鎮静化に向けた取組を支援することを可能とした法制上のイノベーションについて学習し、その意義と概要を説明できるようにする。実務経験を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、自衛隊の国際貢献活動について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。平成13年版及び平成22年版の防衛白書を閲覧して「周辺事態安全確保法」「船舶検査活動法」「国際テロの対応のための措置」「イラク国家再建に向けた取組への協力」の説明を読み、自衛隊の国際貢献活動について考察する。国際社会による事態鎮静化に向けた取組を支援することを可能とした法制上のイノベーションについて考え、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
14	①授業テーマ 平和安全法制の整備 ②授業概要 我が国を取り巻く安全保障環境が一層激しさを増す中で、抑止力の向上や地域と国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献することを通じて我が国の平和と安全を一層確かなものとするをめざした法制上のイノベーションについて学習し、その意義と概要について説明できるようにする。実務の観点から解説を行います。（E 1・

	H 1・I 1) ③予習（120分） 事前配布資料を読み、平和安全法制などの意義について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。平成29年版防衛白書を閲覧して「平和安全法制などの整備と施行後の自衛隊の活動状況など」の説明を読み、平和安全法制について、自分なりの説明をまとめる。学習の記録をつける。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 国際環境と防衛上の課題の変化に対応して日本国憲法の下で行われてきた防衛法制上のイノベーションの生成と普及の過程を振り返り、防衛法制の展開の意義と概要を説明できるようにする。実務経験を踏まえた解説を行います。（E 1・H 1・I 1） ③予習（120分） 事前配布資料を読み、防衛法制の展開と残された課題について考察する。学習の記録をつける。 ④復習（120分） 事前配布資料・講義ノート・事後配布資料を確認してファイルに綴じ、小テストの講評を参照して単元を振り返る。ファイルに蓄積された配布資料・講義ノート・課題と学習の記録を確認して、学習の成果を振り返る。関連科目を通じて修得した知見を総合しながら、我が国の平和国家としての歩み及び国際社会における主要なプレーヤーの地位確保という二つの目標と防衛法制という目的達成手段の関係についての自分の考えを振り返りまとめてみる。防衛法制を履修した者としての今後の社会的責任に思いを馳せて、爾後の学習計画を検討する。
関連科目	国家と法（RMGT1141）、立憲主義と統治（RMGT1312）、行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、行政法と行政過程Ⅲ（RMGT2323）、地方自治と法（RMGT2361）、災害と法（RMGT3401）、国民保護（RMGT3522）、国際法（RMGT3451）、国際人道法（RMGT3453）、安全保障論2（RMGT3554）、防衛政策（RMGT3557）、テロ対策論（RMGT3528）、海上保安学（RMGT3532）、海外安全対策（RMGT3359）、国際協力論（RMGT3560）
教科書	事前及び事後にポータルサイト経由で資料を配布する。
参考書・参考URL	田村重信編著『新・防衛法制』内外出版株式会社、2018年、ISBN978-4-905285-92-2 防衛省『防衛白書の検索』 http://www.clearing.mod.go.jp/hakusho_web/ 総務省『法令データ提供システム』 http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/indexsearch.cgi 外務省『条約データ検索』 http://www3.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/ 国立国会図書館『日本法令索引』 http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/index.jsp 国立国会図書館『国会会議録検索システム』 http://kokkai.ndl.go.jp/ 内外出版『防衛実務小六法』内外出版株式会社、各年、ISBN978-4-905285-84-7（三軒茶屋キャンパス図書館請求記号393.21B62） 朝雲新聞社『防衛ハンドブック』朝雲新聞社、各年、ISBN978-4750920399（三軒茶屋キャンパス図書館請求記号392.1076A81） 法令用語研究会編『法律用語辞典 第4版』有斐閣、2012年、ISBN978-4641000285 法制執務擁護研究会『条文の読み方』有斐閣、2012年、ISBN978-4641125544 その他は配布資料において適宜指示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10％：パブリックセキュリティ20％：グローバルセキュリティ65％：情報セキュリティ5％ ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学50％：法学50％

